



カトリック六甲教会 教会報

2025

12

No. 648



「フランシスコ・X」

主任司祭 加藤 信也 S. J.



「今からおよそ五百年前、戦争で右足に重症を負った一人の男が神の声を聞いた。神の声を聞いてしまう人々が今よりも大勢いた頃の話である。耳を澄ませば、その囁き声が聞こえるほどに、世界は静かであった」（島田雅彦著「フランシスコ・X」より）。

神の声を聞いた男はイグナチオ・デ・ロヨラ。彼はパリで出会ったフランシスコ・ザビエルに語りかけます。「人は、たとえ全世界を手に入れても、自分の命を失ったら、何の得があろうか」。

イグナチオを中心とした仲間たちはイエズス会を創立、初代総会長となったイグナチオはザビエルを東洋の宣教に派遣します。インド、日本へと宣教したザビエルの目はしかし満足することなく、大国中国を捕らえていました。中国宣教の望みはザビエルを突き動かしますが、しかし大陸を目前にした^{サンシオン}上川島で、彼は病のため息を引き取っていきました。

神はザビエルに、東洋への宣教という大きな使命を与えながら、しかし、すべてをザビエル一人に委ねることはしませんでした。「あなたの仕事はここまで。後は、あなたに続く人々に任せなさい」、と神はザビエルに語ったことでしょう。「わたしはあなたがそれを自分の目で見えるようにした。あなたはしかし、そこに渡って行くことはできない」（申命記 34. 4）。

人生は様々です。それぞれに異なりながら、しかしどんな人生にも共通するものがあります。それは、われわれの人生の主人公は私たち自身ではないという点です。それを認め、私ではない主人公にすべてを委ねること、当たり前のように、多くの人が自分自身を主人公として生きているのも事実でしょう。

では、神の声に聴き従えば順風満帆なのか？神はわれわれに順風満帆を約束するわけではありません。「突風を静める」（マルコ 4. 35-41 他）奇跡が語るとおり、神がいても嵐はあり、そこから神と人との共同作業が始まっていきます。

（写真は聖堂のクリスマス・ツリー）



献堂 30 周年に寄せて

カトリック六甲教会の新聖堂が献堂されてから、今年で30年の節目を迎えることができました。

新聖堂は、建設途中の阪神淡路大震災にもかかわらず、当初の予定通り 1995 年 11 月 3 日に安田大司教様の司式で献堂式が行われました。このことは、新しい聖堂を見守り続けて下さった神様の導きであり、当初より私たちは多くの恵みを受け、共同体としての歩みを続けてまいりました。

この記念の年を迎えるにあたり、教会を支えてくださったすべての方々に感謝し、これからも祈りと奉仕に満ちた教会であり続け、神様の豊かな恵みと平和に満ちた私たちの六甲共同体が次の世代にも受け継がれていきますように。

小教区評議会議長 堤 福生

園芸だより・献堂 30 周年によせて



教会入口ベルタワールのマリア像の足元には小さな花壇が有り、四季折々の花が彩りを添えています（写真左）。私はそのベルタワール花壇の苗選りや植え込みを担当しています。10 月にはリンドウや葉色がきれいなアキランサスを植えて秋の花壇を作りました。12 月にはクリスマスや新年の雰囲気合わせた花壇を作る予定です。また、春に向けてスノードロップやムスカリの球根を別の場所で育てて準備をしています。日々のお手入れは園芸係全員で行い、毎朝ミサに与る信徒の方々がこの場所を美しく清掃してくださっています。

ベルタワールは 69 年前（1956 年）に旧聖堂とつながる鐘楼として建てられました。旧聖堂の取り壊しの際に教会の象徴として残され、現在の独立した塔の形になりました。毎日正午と夕刻にお告げの鐘が鳴り響き、祈りの時を告げています。この塔のマリア像は、神戸市民へのベルギー・アントワープ市民からの友情と祈りが込められたご像です。寄贈には心温まる物語があります。

1995 年の阪神・淡路大震災が起きた時、ベルギー・アントワープ市のブルーノ・ペータース氏が当時の主任司祭オマリー神父様に復興のお手伝いを申し出て下さいました。ペータース氏は六甲教会 2 代目主任司祭ペーテルス神父様の甥御さんで、ペーテルス神父様から六甲教会と神戸への深い愛を聞いておられました。オマリー神父様は「私

たちは精神的な支えをととても必要としています」とお答えになりました。その言葉を受け、ペータース氏が周囲に働きかけてアントワープ大聖堂で追悼ミサが捧げられ、同大聖堂の守護聖人である聖母マリアのご像のレプリカを神戸市民



へ贈ることが決まり、六甲教会にお迎えすることになりました。

六甲教会は多くの方々に見ていただけるように、建築専門家の信徒の方を中心に、ベルタワール北側出入口のドアと欄間（らんま）を一枚ガラスに改修し、ガラス越しに見える背景にブドウの木のレリーフを設けて（写真右）、その前にマリア像をお据えしました。さらにご像の右側にアントワープ市民からの贈り物であることを伝える記念プレートを取り付けました。マリア像は 1998 年 8 月 15 日聖母マリアの被昇天の日に祝別され、それ以来、この場所から私たちを静かに見守っておられます。

マリア像の足元の花壇は、祈りの場を優しく彩ると同時に、教会にゆかりのない、道行く人々にも教会の雰囲気伝えていきます。マリア様のご像にまつわる温かい物語を心に留め、祈りの場としてふさわしく、見てくださる方々の心に安らぎをもたらす花壇作りをこれからも心がけていきたいです。

施設管理部 島根朋子



《 アン神父様が初ミサ 》 11月2日(日)



死者の日の11月2日、パウロ・ガン グエン・タン・アン神父が六甲教会で初ミサをささげられました。10時ミサの司式は加藤主任司祭、増井神父と共に行われました。

アン神父は学生時代のボランティア活動で仕えることに真の喜びを見出し、長い歩みを経て「召し出し」を確信、2013年にイエズス会

ベトナム管区に入会、哲学課程を修了して日本に派遣されました。司祭叙階は、今年9月27日でした。

ミサのお説教でアン神父は、死者の日に祈ることの意味についてお話しされました。私たちは、すでに亡くなった人たちとも、神の愛のうちに今もつながっている、また、死者のために祈ることは、亡くなった人々の魂が、すべての罪の汚れから清められ、神の国で永遠の命と喜びに与ることができるよう、父である神に願うこと。私たちが祈ることで、亡くなった人々が今度は私たちのために取り次ぎをしてくださるという恵みのつながる、と説かれました。

司祭叙階され初ミサを司式した神父の按手は、特に“効き目”(?)があるとされているようで、前庭で按手するアン神父様の前には、長い列ができました。

《 ミニコンサート The three wise men 》 11月1日(土)諸聖人の日

死者の日のミサの後には、教会聖歌隊から3人の独唱奉仕者によるミニコンサートが開かれました。メンバーは、詫洋一さん、船井孝祐さん、鈴木 肇さんの3人。全体の構成と指揮、伴奏は清水真理子さん。朗読は藤原公子さん。曲目は、伝統的な Dona nobis pacem から始まり、近代イタリアの作曲家C. グラッシのアカペラ聖歌2曲、さらにシューベルトのドイツミサ曲抜粋など。最後にカトリック聖歌「われ神をほめ」(テ・デウム)を高らかに歌い上げ、諸聖人のミサの日にふさわしいひとときとなりました。



(写真は左から詫さん、船井さん、藤原さん、清水さん、鈴木さん)

《 越年越冬の炊き出し 》

今年も、神戸市役所南の東遊園地で、越年・越冬の炊き出しを行います。

カトリック社会活動神戸センターの当番日は、1月1日(木)雑煮と1月4日(日)中華丼です。お手伝いできるかたがいらっしゃると助かります。ボランティアのかたも一緒に食事できます。

☆主 催：越年越冬実行委員会

☆炊出し期間：12月27日(土)～2026年1月4日(日)

☆場所と時間：東遊園地南端花時計広場、10時～15時
(途中退出も可)

☆配食開始：12時半～



・参加できる方は、人数把握のため事前に活動センター (Tel. 078-271-3248) までご連絡下さい。

《 酒井補佐司教様をお迎えして 三日月会例会 》 11月12日

今月の三日月会例会は大阪高松大司教区の酒井俊弘補佐司教様にお越しいただき、お話を聞くことになりました。通常例会は、主聖堂でのミサで始まるのですが、今回は神父様方がお留守の為、信徒による「ロザリオの祈り」を約40分間行いました。三日月会としては初めての試みでしたが、参加された信徒の皆さん方の多くからは好評だったようです。

酒井補佐司教様は普段、大変お忙しく、公的な行事でしかお目にかかれませんが、このたびは当教会の三日月会の例会にわざわざ来ていただき感謝でいっぱいです。

例会は和やかな雰囲気の中で始まり、司教様は最初に「終活」について話されました。我々高齢の三日月会メンバーにとっては身近な問題だけに、皆さん熱心に耳を傾けておられました。内容は「聖香油のミサ」で、その中の「病者の塗油」（①回心、許しの秘跡、②塗油、③聖体拝領[最後の糧、旅路]）について詳しく解説されました。知らなかったこともあり、勉強になりました。その後、2回行かれたスペインのサンディゴ巡礼の映像を見せていただきました。

最後の意見交換の時間でもメンバーから活発な質問があり、気さくなお人柄の司教様は丁寧に答えておられました。身近に司教様と触れ合うのもいいですね。今回は参加者が50名弱だったのは、我々の執行部のPR不足と反省しています。また、このような機会を設けたいと思いますので、その節は是非ご参加下さい。（三日月会会長 蛭田 武）

《 クリスマス音楽の集い 》 12月21日(日)

今年もクリスマスに先立ち、音楽の集いを開催いたします。主の降誕を待ち望む喜びをご一緒できれば幸いに存じます。お一人でも多くの方のお越しをお待ちしています。

(音楽チーム)

日 時：12月21日(日) 14時開演 入場無料

※当日献金を募っています

場 所：カトリック六甲教会 主聖堂

出 演：ヴァイオリン：阿江麗、折川真理

フルート：森脇一有美

ソプラノ：高山教子、西川 葉

オルガン：奥田仁美、熊澤加代、清水真理子、

土田ルミ、松井公子、三浦優子

カトリック六甲教会聖歌隊



教会学校便り 子供たちも出店！チャリティーバザーは大成功

11月9日に行われたチャリティーバザーでは、保護者と子どもたちによる手作りのお店が並び、会場は大きなにぎわいとなりました。キャンディーレイや写真入りクリスマスオーナメント、組み立て式ボールペン、クリスマスシールで飾った瓶やカップなど、多彩な品が販売されました。キャンディーレイの販売では、子どもたちが自作のサンドイッチマン風の宣伝看板を身につけ、元気に売り歩く姿が印象的でした。また、教会学校のリーダーによる的当てやコイン落としのゲームコーナーも盛況で、多くの景品がなくなるほどの活気に包まれました。（辻原 華）



お掃除プロジェクトから掃除当番募集!!

私たちの教会では、これまで長い間、金曜日の午前中に 1 時間程度、交代で清掃奉仕が行われてきました。以前には婦人会が、近年では各地区が交代で担当してきましたが、週日に働く方が増加したことや信徒の皆さんの高齢化によって、一緒に活動できるメンバーが減少し続けています。

そこで、より多くの皆さんが無理なく参加できるよう、また、清掃自体を軽減できるように、新年度から下記の考えのもとに、体制を見直すことにしました。教会清掃は本来私たちの手で行うのが正しい姿と考えています。どうかよろしくお願いします。

11 月末から当番募集のチラシを配布しています。清掃当番にご応募ください。

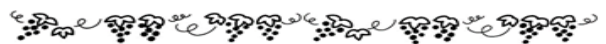
1. 新年度から、地区会での清掃担当は廃止します。土曜班、日曜班も再編されます。個人でも、グループを作っても、気軽に参加してください。
2. 曜日は固定しません。金曜日以外でも結構です。
主日ミサの終了後～翌週土曜日のミサ前までの都合の良い曜日、時間帯にお掃除をお願いします。皆様からの回答により、掃除当番を再編します。
3. 外注による清掃の回数を増やすことも考えています。
4. 掃除道具を見直し、軽くて使いやすいものを備えて皆さんの負担を軽減します。
5. 清掃奉仕に参加できない方のために、「掃除献金」を募ることも考えています。
それをもって外注や掃除道具の充実にあてる案もあります。

【清掃対象箇所】：主聖堂、小聖堂、イグナチオホール、信徒会館、廊下、階段、トイレなど。（分けて掃除することもあります。）

教会掃除改善プロジェクトチーム



クリスマスに向けて準備着々



主聖堂のツリー飾りつけ



“クリスマス音楽の集い”に向けて猛練習の聖歌隊



今年は子供たちも飾りつけに参加（風防室の馬小屋）

《七五三は7人のこどもが祝福を》



11月16日（日）はごミサの中で、七五三祝福式が行われました。祝福を受けたのは7人。祭壇の前に神妙に並んだ正装の子供たちは、神父さまから「びっくりしないでね」とあらかじめお知らせを受けたあと、祝福の聖水を振っていただきました。おメダイを一人

ひとりが首にかけていただき、退堂前に千歳あめをいただきました。

信徒の皆さんのほうにくるりと向き直った子供たちは、盛大な拍手を受けました。

この日ごミサに初デビューの高校生たちがバイオリン、ヴィオラ、カホン（パーカッション楽器）、そしてパイプオルガンで閉祭の音楽を奏でました。



《教会学校でアドベントカレンダーづくり》

教会学校の子供たちは11月22日（土）に集まり、アドベントカレンダーを作りました。

まず、渡辺神父さまから待降節（アドベント）についてのお話を伺いました。そして、神父様がミサの時に身に着けるストラ*の色がその季節には紫色になることについて、その意味を教えていただき、カレンダーの制作に取り掛かりました。

ツリーの形が何やらもこもこと立体的なのは、マシュマロやチョコレートなどのお菓子を入れた小さな紙コップを緑色の紙ナプキンで覆い、カレンダーの数字を手書きしたシールを貼っているからです。大きなボール紙にコップを1つずつ接着してツリーの形にすると、その周囲には、カラフルなモールで、クリスマスにちなんだ形を作り、貼り付けました。



*：ストラ（Stola）は、司教、司祭、助祭の方々が礼拝の際に使用する、首から掛ける帯のことをいいます。他の教派では「ストール」とも呼ばれています。

待降節第1主日からは、紫色のストラが用いられます。紫は慎み深い心を表す色だとされています。



カトリック社会活動部神戸センターからのお願い



★ 緊急！ 寒さが増してきました。野宿者や生活困窮者が以下の物を至急求めています。

毛布、寝袋、タオルケット、敷パット、防寒着、下着は新品のもの、靴下 など

ご家庭で眠っている寝具類や、防寒着などがありましたら、12月14日（日）までに

聖堂入口の箱にお入れ下さい。**引き続きご支援を！！**

（社会活動部）

私の好きな聖書のことば



「愛は忍耐強い。愛は情け深い。ねたまない。愛は自慢せず、高ぶらない。礼を失せず、自分の利益を求めず、いらだたず、恨みを抱かない。不義を喜ばず、真実を喜ぶ。すべてを忍び、すべてを信じ、すべてを望み、すべてに耐える」

〔コリントの信徒への手紙（一）13章4-7節〕

子育てに悩み、感情に任せ怒鳴る日々もありました。教会という場でミサに与りイエス様の愛に触れる事で自分自身と向き合い自分のみにくい部分を反省し無性に悲しくなる事がありました。怒りの感情に囚われ傷付け合ってしまう人の弱さを感じた時には自分の姿を見ているようで心苦しくなります。

私達を生かし続けて下さる神様の恵みを深く感じ取れるよう、心豊かに心穏やかな生活を送りたいと思います。

マグダレナソフィアバラ 島本 郁子

「2025 年度 秋の墓参」

典礼暦「死者の日」の11月2日（日）、秋晴れの穏やかな天候の下、長峰霊園に於いて「秋の墓参」が行われました。

最初に「納骨式」が行われ、聖歌とお祈りの後、加藤神父様が聖水で祝福された共同墓に、16柱のご遺骨がそれぞれのご親族によって埋葬され、献香によって式は終了しました。

続いて共同墓に埋葬されているすべての方々に向けて行われた「墓参の祈りの集い」では、参列者全員で「主の祈り」、「アヴェ・マリアの祈り」を唱え、聖歌「神とともにいまして」を歌って集いを終えました。

最後に「個人墓の祝福」として、渡辺神父様が最下段のⅠ地区から上に向かって、加藤神父様が共同墓のある最上段のⅢ地区から下に向かって、順に、参列者のおられるお墓の前では一緒にお祈りを唱え、聖水をかけて各個人墓を祝福して下さいました。

さて、これまで「秋の墓参」は「死者の日」に合わせて11月初旬に、「春の墓参」は2月末～3月の日曜日に実施して参りましたが、共同墓への納骨日が「春 or 秋の墓参」当日という年2回に限定されており、その間隔に偏りがあるため、納骨される方の人数にも影響するのか、現状では「秋の墓参」の時期に納骨される方の人数が多くなりがちでした。共同墓前はスペースも限られているため、墓地委員会では、春と秋とで納骨式に参加される方の人数に大きな差が出ない方がいいのではないかと考え、「春の墓参」の時期を少し後ろにずらすことに致しました。

以上のような理由から、次回の「春の墓参」は、4月19日（日）に実施致します。

皆様のご理解とご協力をよろしくお願い致します。

墓地委員会 コーディネーター 鍵山 浩三

【社会活動部の今月の予定】

12月 3日（水）10時 手芸の集い：第1・第2会議室 手芸のお好きな方ならだれでも。

12月 7日（日）10時ミサ後 ふれあい広場（社会活動部ボランティアグループ出店）

12月13日（土）10時半 炊き出し：小野浜グラウンド（中央区小野浜町3）六甲教会から車で行く方は教会に10時集合（新しく参加されるかたは事前に事務所にご連絡下さい）。

12月15日（月）9時半 ともしび会：イグナチオホール台所（児童養護施設、信愛学園と愛神愛隣舎にクリスマスデコレーションケーキスポンジだけ8台焼く）

12月24日（水）9時半 ともしび会：イグナチオホール台所 15日に焼いたスポンジの上にデコレーションして仕上げる。

チャリティーバザーは、雨でも盛況

11月9日（日曜日）のごミサのあとに開かれたチャリティーバザーは、あいにく朝から雨でしたが、かえって賑わいがありました。総出店数は29。イグナチオホールでの食品販売は、お寿司やサンドウィッチ、クリームシチュー、カレー、焼きそばやケーキと盛りだくさん。今年は、「カトリック質問・相談・紹介」コーナーが開設されました。聖堂前庭では中高生がフランクフルト、カボチャのプリンを販売しました。物品販売の信徒会館では、ボランティアグループや個人による出店の店先が、珍しいもの、ほしいものに溢れていました。一部を写真で紹介します。



パイプオルガン体験は大人気。



図書室では「的当て」ゲーム！



神父様に相談。
あのねのね…。

今年のオニヤンマ君づくり
(防虫グッズ)には、子供も
参戦。



教会学校保護者と
生徒の作品販売。
組立て式ボールペン
が人気。



「朗読の集い」には渋い大人の皆さんが
集まりました。



皆さまの売上げ寄付を期待しています。
(会計係)



↑ 菊芋の漬物あり図。
ボランティアグループ AIC。



信徒会館2階の第1第2会議室には、
7つのグループが出店。
手芸品や雑貨、ジャムや、豚まんも。



←中高生会は、ご聖堂の外で、
焼き鳥や自家製プリン、フランク
フルトを販売。
おいしそうなおいが漂って
いました。



↑ラザロとマルタのお食事処はスタッフ充実で、完売。
イグナチオホールでの食品販売は種類も多く選ぶ楽し
みがありました。



←東条湖の家(NPO 法人ノア)は、
おしゃれな外国食材がいっぱい。

厨房も入れ替わり立ち代わり
大奮闘。 →



巡礼完走をして

吉村 光基



今年は通常聖年ということで、大阪高松教区内の巡礼指定教会を回ろうと考えました。動機としては、25年に一度しかないこの機会に、家族との記念にしたいと考えたからです。

ただ、当初は、巡礼完走を目指していたわけではありません。たまたま息子たちとサイクリングしていて立ち寄った住吉教会で、巡礼手帳をいただきました。その後、夙川教会、たかとり教会、大阪梅田教会と少しずつスタンプを押していく中でスタンプラリーが楽しくなり、最終的には「全部集めよう」と考えるようになりました。

また、普段は六甲教会のことしか知らない息子たちに、他にも色んな教会があることを見せたいという思いもありました。実際、色んな教会に行くと、その教会のコミュニティとしての在り方、歴史や文化を感じる機会となりました。

在籍信者に外国籍の方が多い教会、主任神父様の趣味でストラを沢山飾っている教会、社会活動に力を入れ、たくさんの活動内容を掲示板に貼りだしている教会、立派な幼稚園が同敷地内にあり、希望の象徴でもある「子ども」を身近に感じられる教会、主任神父様がYouTubeで積極的に宣教活動している教会、自動販売機が教会内にあり、喫茶スペースのある教会、そして、巡礼者のために手作りのストラップやしおりなどを置いてくださっている教会……本当に色んな教会がありました。



多くの教会が市街地の中心に位置していました。人が沢山いるところにある教会は、まだまだ宣教のチャンスがあるのではないかと思います。

巡礼指定教会を訪れた際、教会事務所の方や神父様は温かく私たちを迎え入れてくださいました。巡礼する中で、そのテーマでもある「希望」というものが心の中に湧いてきました。私たちは「希望の巡礼者」なのだという自覚を持って巡礼をするようになりました。

2月11日にスタートした巡礼の計画としては、まずは普段の休日に近隣の教会を中心に行きました。5月の連休では2泊3日で四国の巡礼指定教会を全て回りました。特に、桜町教会の松浦信行神父様には大変お世話になりました。夏休みには、最後に残っていた大阪南部（堺・岸和田・泉佐野）と和歌山紀北教会（写真上）を訪れ、コンプリートしました。

巡礼完走証明書は息子たちともらいに玉造教会へ行きました。夏休み明けはなかなか行くタイミングがなかったので、10月9日になりました。番号は93, 94, 95です（写真下）。大きな達成感がありました。

最後になりましたが、人が一人ひとり違うように、教会の特色も当然違います。でも、どの教会に行っても、信仰というつながりがあり、教会建物の中に入ると、守られている安心感のようなものがありました。社会では分断や差別が蔓延していく危険な風潮にあります。そういった中で、教会はすべての人に開かれた教会であること、また、私たちは「出向いていく教会」を体現していくこと、それが共同体としての大きなミッションなのだというを改めて心に留め、日々を過ごしたいと思います。

一緒に回ってくれた息子たち、母、友人、そして、関わってくれた全ての方々に感謝。



【2025 年 12 月行事予定表】

日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6
			日本宣教の 保護者聖フラン シスコ・ザビエ ル司祭 ミサ 7:00 10:00		初金ミサ 7:00 10:00 ◎東灘南	
7	8	9	10	11	12	13
待降節第2主日 手話ミサ 10時ミサ中 宣教地召命促進の 日(献金) イグナチオ喫茶 10時ミサ後	六甲教会 創立記念日 無原罪の聖母 マリアミサ 7:00 10:30 ロザリオの祈り 10:00				◎東灘北2・ 芦屋	教会学校終業式 クリスマス会 社会活動部 炊き出し 屋外教会清掃 9:00 (雨天時は20日[土] 9:00)
14	15	16	17	18	19	20
待降節第3主日			◎教会掃除改善プ ロジェクトチーム			教会大掃除(屋外) 予備日
21	22	23	24	25	26	27
待降節第4主日 財務委員会 11:30 クリスマス音楽の 集い 14:00			主の降誕 夜半のミサ 17:00 19:00 21:00	主の降誕 日中のミサ 7:00 10:00 ミニコンサート 10時ミサ後	最初の殉教者 聖ステファノ ◎灘北1・北・ 三田	聖ヨハネ使徒福音 記者
28	29	30	31	1/1	1/2	1/3
聖家族 部分教会での 聖年閉幕	教会事務年末年 始休み (~1/3)			神の母聖マリア ミサ 7:00 10:00 世界平和の日	初金ミサ 7:00	(1/4: 主の公現, 教会報1月号印刷)

◎印は掃除当番地区(午前7時時点で気象警報が発表された場合は中止)

【編集後記】

- ◇教会が用紙などの調達に取引しているアスクルが、ランサムウェアというサイバー攻撃に晒され流通がストップしたので、毎月使用する教会報の印刷用紙の代替確保に苦心しました。一応現在使用しているのほとんどと変わらない規格の用紙を確保出来ましたが、先行きは不透明です。アスクルがイツクル?と洒落ている場合ではありません。
- ◇ことしは各地でクマ被害が社会問題化しました。ところでクマは冬眠しますよね。その間に知恵を絞って、春には被害の出ないようにしてほしいものです。クマ年ならぬウマ年に期待。(余)

<p>次回1月号の印刷・発行は1月4日(日)1時半からです。</p> <p>原稿は毎月15日ごろまでに、教会受付へご持参いただくか、FAX、メールをお願いします。</p> <p>(renraku@rokko-catholic.jp)。皆さまからのご寄稿をお待ちしています。</p> <p>・教会ホームページ(右のQRコード)をご登録ください。教会報や教会の行事などが御覧になれます。</p> 	<p align="center">カトリック六甲教会</p> <p align="center">〒657-0061 神戸市灘区赤松町3-1-21</p> <p align="center">電話 078-851-2846</p> <p align="center">FAX 078-851-9023</p> <p align="center">http://www.rokko-catholic.jp</p> <p align="center">発行責任者 加藤 信也</p> <p align="center">編集 広報部</p> 
---	---